

観音

平成8年8月
第25号

発集発行

広島県安芸郡府中町
茂陰2丁目2-8-10
真言宗 正観寺

小出真行



稲荷大明神

如来の智恵の海は広くして

無辺である

『お稲荷さん』

宗秘論

商売繁盛の神様として、狐を眷属とする「お稲荷さん」。実はそのもとのインドでは、人間の心臓や肝を食べるという神「荼吉尼天」だったのです。この「荼吉尼天」は「荼枳尼天」とも書き、インドにおいては「ダーキニー」と呼ばれる夜叉神だったのですが、大日如来が姿を変えて大黒天となり、降伏させ、ついに改心させたといわれています。

日本では、平安時代の頃からあった狐神信仰とひとつになり、稲にかかわる神、稲荷神として庶民の信仰対象となったのです。

神道においては、稲を背負う老翁を稲荷神としていまして、これは稲の豊作がそのまま生活の豊かさに通じていた当時としては、稲荷が福をもたらす神、商売繁盛の神との考えから生じたものと思われまます。

さて、世間でまつられています「荼吉尼天」は、一般的に天女の姿をし、左の手に如意宝珠か火焰宝珠を載せ、右手に剣を持ち、空を飛ぶ様子をした白狐にまたがっています。

又「荼吉尼天」は、胎蔵界曼荼羅の外金剛部院に属していますので図示しておきます。

「お稲荷さん」の真言といえますと、オン・シラ・バツタ・ニリ・ウン・ソワカと、となえ、意味は「修智加持力をもって、天星悪星天魔外道を破壊し、妄想、疫病、火盗を消滅したまえ」と解釈します。ただし、「南無稲荷大明神」と称えられて結構です。

ところで、正観寺の「お稲荷さん」は、紀州浅野藩の家臣だった小出家の先祖が、愛知県豊川市の禅門の寺（妙巖寺）にまつられています「お稲荷さん」を信仰していたのが最初だと思われまます。

尚、参道に鳥居の寄進をと思われる方は、お申し出下さい。



H7. 5. 29 (月)

御影堂

数多い堂塔の中でもひととき美しいのが御影堂で、屋根はなだらかな椋皮ぶき。回廊に吊灯笼が何十となく下っている。弘法大師の遺影を本尊としているので、その名がある。

一〇万を越すという大小さまざまの墓の展覧会場のような霊域を歩き疲れて、一六時苅萱堂。何回聞いても、石堂丸は哀れだ。四〇分西室院泊。この宿舎だけは、入浴、食事に出かけるのに、鍵不要という気安さ。全く、わが家に帰ったような寛ぎをおぼえる。一八時夕食。初めて、般若湯となら酒が出た。精進料理は、相変らず味つけがよい。例の住職、老執事挨拶。※高野山については、一〇余年間在学された小出住職に譲りたい。

第6日 5月30日(火) 快晴

五時佐々木、田村兄と散歩。五晩も同宿したおふたりと気が合うて、本堂前の庭で、二人ずつ記念撮影。六時暗い本堂で朝の勤行(鯖大師も全く暗かった)七時三〇分朝食。五六分寺僧に見送られて出発。八時大門。それから蛇行また蛇行。四〇分「かじか」店で休憩。九時三五分河内長野市。一〇時岸和田市。二六分泉大津市。四〇分堺市。四三分阪神高速道料金所。一一時大阪市街。四九分兵庫県。一二時一〇宝塚市渋滞。二五分西宮名塩S・Aでトイレ休憩。一三時〇五分加西S・Aで昼食カツ丼。四〇分出発。一四時五〇分吉備S・Aでトイレ休憩。一五時三五分鴨方I・C大西の友(笠岡市の人)おる。五二分芦田川。一六時三〇分八本松町。三六分志和P・A府中町のどこでおりたらよいかガヤガヤ室津挨拶。広島東I・C府中町ダイイチ前、本町、大通、正観寺前、一七時三二分鹿籠踏切前、以後、海田車庫前、竹原：解散。



H7. 5. 29 (月)

三葉松

松の葉がどれを取っても三本であるのが珍しい。雨あがりの境内は、ぬかるみがちのため、歩行にやや難渋した。女ガイドつき。



H7. 5. 29 (月)

金剛峯寺 (和歌山県高野村)

明治2年金剛峯寺と改村されるまでは青巖寺と呼ばれていた。主殿の大玄関を入ると大広間がある。さらに梅の間、柳の間とつづく。

『三鈷の松のゆわれ』

総本山金剛峯寺の御影堂前の松にかかっていたといわれる三鈷杵。これはお大師さまが一年の留学を終え、唐の明州から帰国の航海に就くにあたって、帰国ののち、中国で伝えられ密教を開く聖地をウラナおうとして、手にお持ちの三鈷を空高く投げました。すると、その三鈷は空中高く飛び、東の方角の雲中深く見えなくなったということです。

それから十二年、開宗の聖地を探しながら紀州の高野山に到着したお大師さまは、山上の開けたところの松に、何かかかっているのを発見されました。よくみると、それこそ帰国に先だって霊地を卜するために投げた三鈷そのもので、ほかの奇瑞とあわせて高野山の因縁を深く感じられたお大師さまは、この地を真言宗開創の聖地と定められたということです。

「弘法大師行状絵詞」に記載されています。この説話は、靈物飛来伝説のひとつですが、最も重要なところは、中国から日本へという、いわゆる「八祖相承」という形で伝えられた宗教の伝承が象徴されている様に思われます。ちなみにこの松の葉を財布に入れておきますと財が逃げないといわれています。ただし、この三鈷の松は、大きな松の木の一枝のみですので普段はあまり落ちていませんが、風雨の強い翌日は必ずといっていい程

見つけることが出来ます。



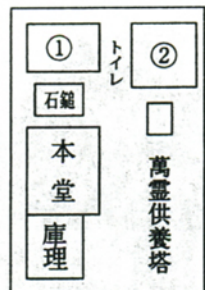
H7. 5. 29 (月)
奥の院にて記念撮影。松浦と川岡が入っていない。かわりに岩本兄弟、大西、末広の5人が加わっている。
(室津昭二写す)



H7. 5. 29 (月)
金剛峯寺の庭(蟠竜庭) 石の配置が心にくいほど絶妙である。

『墓地について』

墓地をお分けています。真言宗以外の方も相談に応じます。



① 一区画
三・〇六²m² 百万円
② 二区画
一²m² 五十万円

※尚、②の墓地は、一²m²からお譲りします。

正観寺

本堂・壇信徒会館建立

昭和三十四年十月に再建されました正観寺の本堂も、長年の歳月の傷みで、いたるところにきしみが生じています。又、大祭では少々手狭になりますし、なにより階段を登ってのお拜りは大変だとの声も耳にしています。

この度、総代・役員会にて一段低い場所に本堂を再建する運びとなりました。詳しくは、後日封書にてお知らせしますので宜しくお願ひ致します。